夏休みボランティア体験を通しての新たな発見

今年の夏休みも多くの学生さんがボランティア体験に参加してくれました。

学生施設ボランティア福祉体験学習

144名の中学生以上の学生さんが、市内の高齢者、障がい者、保育園、児童館・児童センターなどの福祉施設で2日間のボランティア体験に参加しました。この体験を通して、様々な気づきや学びがあったようです。

参加者の声

- 小さい子だけに関わらず、友達や家族の場でも笑顔で話すことが大事だということを学びました。
- 子どもたちからは沢山の元気をもらい、感謝の大切さや探求心をもつことの大切さなど、色々なことを学ばせていただきました。
- 言葉で伝えるよりも、表情の方が伝わりやすいからこそ、表情って大切だと思いました。
- ボランティアは相手が幸せになるだけじゃなく、自分も達成感を得たり、その人の笑顔で幸せになることが分かりました。

- 障がいのあるかたは日々どんなことに取り組んでいるのか知ることができ、とても勉強になりました。これからも様々なボランティアに参加してみようと思いました。
- 利用者さんとの接し方が分からず不安でした。「大丈夫だよ。」という職員さんの声にほっとしました。
- 認知症のかたにもあせらず接することの大切さを学びました。みなさんの笑顔がとても素敵でした。

ボランティアチルドレン

小学生と中学生で構成されるボランティアチルドレンは、障がい者施設「愛厚はなのきの里」の利用者さんとボッチャを通して交流し、障がい者への理解を深めました。

参加者の声

- 施設利用者さんは、今回一緒にやったボッチャなど様々な活動を通して生きがいを感じているのだと思いました。
- 目を合わせたりする中で、その人と通じ合った気がしました。いつもより多くの人と交流することが出来て嬉しかったです。
- 施設は開放感があって、皆さんとても明るい雰囲気で過ごされていたので、私もすごく楽しい気持ちになりました。
- ボッチャなど、誰でも平等に楽しめるスポーツがもっと世の中に広がってほしいなと思いました。

※ボッチャとは･･･赤または青の皮製ボールを投げ、白い目標球にどれだけ近づけられるかを競う競技で、年齢や性別、障がいの有無に関わらず全ての人が共に競い合えるスポーツです。